

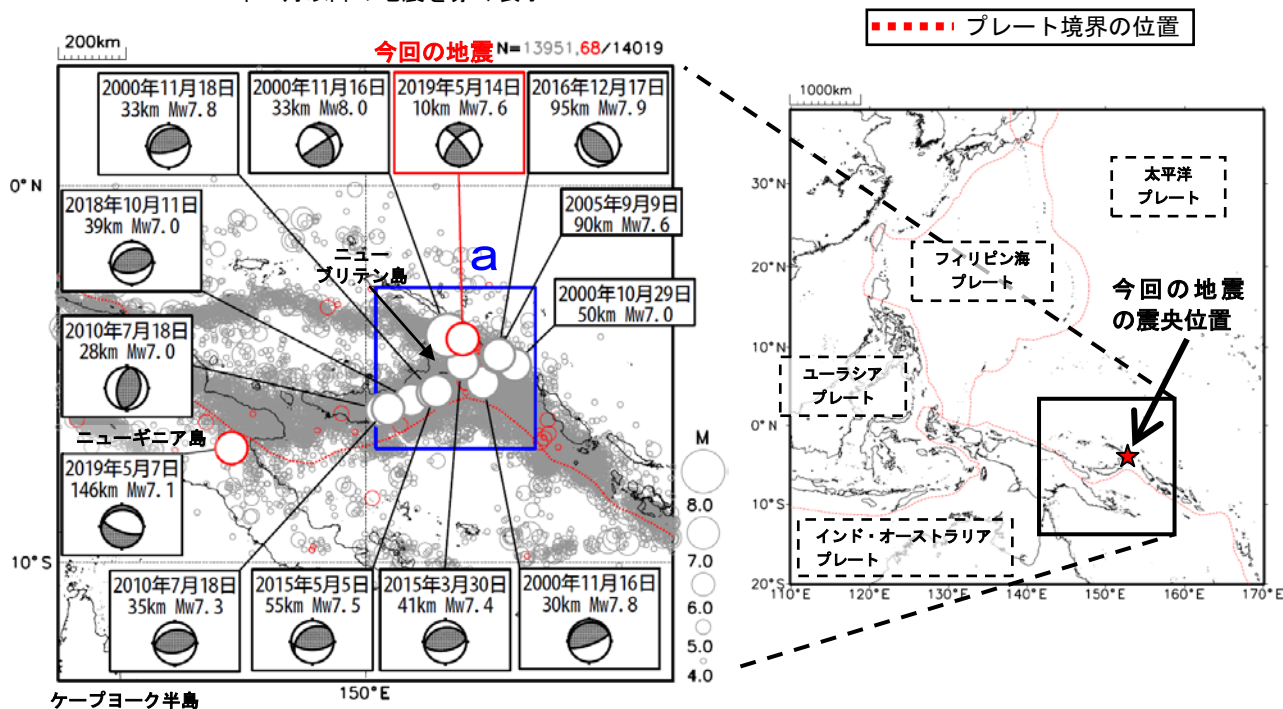
## 5月14日 パプアニューギニア、ニューブリテンの地震

2019年5月14日21時58分（日本時間、以下同じ）にパプアニューギニア、ニューブリテンの深さ10kmでMw7.6の地震が発生した。この地震の発震機構（気象庁によるCMT解）は、東西方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型である。

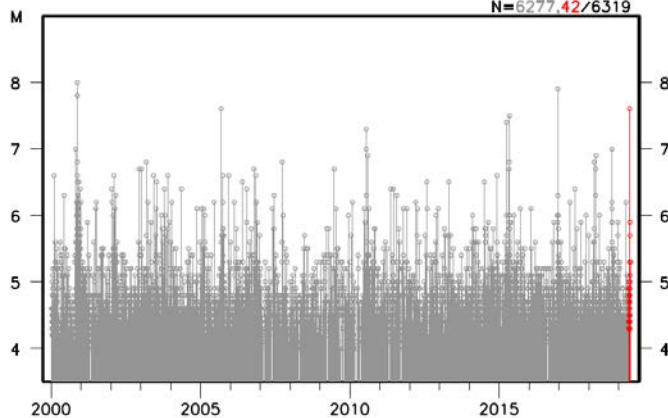
気象庁は、この地震に対して、遠地地震に関する情報を同日22時25分（日本への津波の有無については現在調査中）、翌15日00時10分（津波の心配なし）に発表した。

2000年以降の活動をみると、今回の地震の震源付近（領域a）では、M7.0以上の地震が度々発生するなど活発な地震活動がみられる。被害を伴う地震も発生しており、2000年11月16日にMw8.0、Mw7.8、11月18日にMw7.8の地震が連続して発生し、11月16日のMw8.0の地震では、津波が観測され、死者2人のほか、住家に多数の被害を生じた。

震央分布図  
(2000年1月1日～2019年5月31日、深さ0～150km、M $\geq$ 4.0)  
2019年5月以降の地震を赤く表示



領域a内のM-T図 N=6277.42/6319



※本資料中、震央分布図に吹き出しの注釈がある2009年4月以降の地震（今回の地震を含む）の発震機構及びMwは気象庁、その他の地震の発震機構はGlobal CMTによる。また、2000年以降の地震のM及び震源要素は米国地質調査所 (USGS) による (2019年5月31日現在)。プレート境界の位置はBird (2003) より引用。過去の被害は、宇津及び国立研究開発法人建築研究所国際地震工学センターによる「世界の被害地震の表」による。

\*参考文献 Bird, P. (2003) An updated digital model of plate boundaries, *Geochemistry Geophysics Geosystems*, 4(3), 1027, doi:10.1029/2001GC000252.